

# 3週間以上ゴホゴホ…そんなあなたは



等は、せきや痒み病気が増える季節。せきが出たからといって風邪とは限らない。気管支炎や肺炎、たばこが原因のCOPD、結核、肺がんなど、さまざまな病気が潜んでいる可能性があるから。見極めのポイント。風邪にかどうか、3週間以上、せきが続く場合は専門医を受診しよう。

注意で、最近では百日ぜきなど、子供に多い病気に罹患(りかん)する大人も急増。せきぜんそくを放置して本格的なぜんそくに至るケースも少なくない。呼吸器科に詳しいいかにた内科クリニック(東京・下北沢)の門田篤院長に、せきの見分方法と治療法を聞いた。

## 風邪と思いつつも、大問題が潜んでいるかも

せきは、咳を伴った状態を指す。咳は、気管支や肺に炎症が起ると、痰を絡めて排出しようとする反応。風邪やインフルエンザの流行する冬、いつまでもせきが止まらない場合は、大問題が潜んでいる可能性がある。専門医を受診しよう。



風邪やインフルエンザの流行する冬、いつまでもせきが止まらない場合は、大問題が潜んでいる可能性がある。専門医を受診しよう。

## 気管支炎や肺炎、たばこ、結核、肺がん…原因さまざま

せきは、咳を伴った状態を指す。咳は、気管支や肺に炎症が起ると、痰を絡めて排出しようとする反応。風邪やインフルエンザの流行する冬、いつまでもせきが止まらない場合は、大問題が潜んでいる可能性がある。専門医を受診しよう。

風邪やインフルエンザの流行する冬、いつまでもせきが止まらない場合は、大問題が潜んでいる可能性がある。専門医を受診しよう。

風邪やインフルエンザの流行する冬、いつまでもせきが止まらない場合は、大問題が潜んでいる可能性がある。専門医を受診しよう。

## うがい、手洗い、マスク着用で感染防ごう

【せきの予防と対策】原因の多くは感染症。うがい、手洗い、マスク着用が予防につながります。と門田院長。たばこや電子タバコ、PM2.5や花粉なども、せきを招く原因の一つ。せきを止めるには、原因を特定し、対策を講ずることが大切。と門田院長。

【せきの予防と対策】原因の多くは感染症。うがい、手洗い、マスク着用が予防につながります。と門田院長。たばこや電子タバコ、PM2.5や花粉なども、せきを招く原因の一つ。せきを止めるには、原因を特定し、対策を講ずることが大切。と門田院長。

【せきの予防と対策】原因の多くは感染症。うがい、手洗い、マスク着用が予防につながります。と門田院長。たばこや電子タバコ、PM2.5や花粉なども、せきを招く原因の一つ。せきを止めるには、原因を特定し、対策を講ずることが大切。と門田院長。

## 1975年2月～81年当時0～3歳の人には要注意

1975年2月～81年当時0～3歳の人には要注意。この期間に百日ぜきや結核に感染した人は、成人後、気管支炎や肺炎、肺がんのリスクが高まる可能性がある。と門田院長。

1975年2月～81年当時0～3歳の人には要注意。この期間に百日ぜきや結核に感染した人は、成人後、気管支炎や肺炎、肺がんのリスクが高まる可能性がある。と門田院長。

1975年2月～81年当時0～3歳の人には要注意。この期間に百日ぜきや結核に感染した人は、成人後、気管支炎や肺炎、肺がんのリスクが高まる可能性がある。と門田院長。

## 長引くせきは、肺や気管支炎の真実のサイン。たばこや電子タバコを禁煙しよう。



長引くせきは、肺や気管支炎の真実のサイン。たばこや電子タバコを禁煙しよう。たばこや電子タバコは、気管支を刺激し、炎症を引き起こす。禁煙することで、せきが治る可能性がある。と門田院長。

## 地味だけど滋味深い…知られざる埼玉を紹介

地味だけど滋味深い…知られざる埼玉を紹介。埼玉には、多くの名産品や観光地がある。今回は、埼玉の魅力を紹介します。

あだの知らない 高崎線 宇都宮線. Includes an illustration of a train and text about the railway lines.

## 福井県のスイセン30本を5人に



福井県のスイセン30本を5人に。福井県では、スイセンの栽培が盛んです。今回は、5人に30本のスイセンを譲渡しました。

## サッポロ「箱根駅伝」ビール6缶が4人に



サッポロ「箱根駅伝」ビール6缶が4人に。サッポロビールは、箱根駅伝の応援ビールです。今回は、4人に6缶のビールを贈りました。

## 1975年2月～81年当時0～3歳の人には要注意

1975年2月～81年当時0～3歳の人には要注意。この期間に百日ぜきや結核に感染した人は、成人後、気管支炎や肺炎、肺がんのリスクが高まる可能性がある。と門田院長。

1975年2月～81年当時0～3歳の人には要注意。この期間に百日ぜきや結核に感染した人は、成人後、気管支炎や肺炎、肺がんのリスクが高まる可能性がある。と門田院長。